

# 2021 年度 科学技術社会論学会 総会・年次学術大会プログラム

(2021.11.26 版)

12月4日(土)

**【第1セッション】 9:30 - 10:30**

## A-1-1【GS】科学論

座長：城下 英行（関西大学）

坂本 舞衣（北海道大学）、川本 思心（北海道大学）  
科学と芸術の関係性についての論点整理

杉谷 和哉（岩手県立大学）

EBPM（エビデンスに基づく政策形成）に対する「STS アプローチ」についての試論的  
考察：ホルガー・ストラハイムの立論を参考に

渡邊 康平（千葉大学）、神里 達博（千葉大学）

「科学論の第三の波」の構造と STS 的合意

## B-1-1【GS】STS 教育

座長：横山 広美（東京大学）

小林 俊哉（九州大学）

STS ステートメントが大学院生の社会意識・研究倫理意識に及ぼした影響 -7 年間の振り返り

戸田山 みどり（八戸工業高等専門学校）

科学技術を、もうちょっと考える：工学系学生のための科学コミュニケーション授業実践報告

種村 剛（北海道大学）

演劇を用いたヒト受精卵へのゲノム編集をテーマとした生命倫理教材の制作

## C-1-1【GS】科学技術政策 (1)

座長：綾部 広則（早稲田大学）

中山 敬太（早稲田大学）

萌芽の科学技術の不確実性リスクに着目した科学技術政策の予防的措置に関する国際的  
動向——EU・アメリカ・日本の比較検討——

坂田 成実（千葉大学）、神里 達博（千葉大学）

人工知能政策の形成過程分析—科学技術と期待の関係に着目して

定松 淳（東京大学）

「もんじゅ」後続炉選定過程の分析：2016-2020

## D-1-1【GS】博物館資料を活用した科学史の研究および展示・演示・アーカイブ化の試み

座長：直江 清隆（東北大学）

夏目 賢一（金沢工業大学）

近代日本の技術者における公共性と倫理：工学会と土木学会の学会誌からの分析

七沢 智樹 (Technel 合同会社)

技術と人の関係性における自己観を再考する

鈴木 俊洋 (崇城大学)、藤原 厚作 (大分県立芸術文化短期大学)

見えなくなる農業 — 農業という技術の発展についての技術哲学的考察 —

**【第 2 セッション】 10:45 – 11:45 (E-1-2 のみ 10:00-11:30)**

**A-1-2 【GS】 原発事故**

座長：城下 英之 (関西大学)

林 衛 (富山大学)

公害被害・原発震災危険性をあいまいにし続けてきた日本版 STS トランスサイエンス論の軌跡——終焉はくるのか

八巻 俊憲 (元福島県立田村高等学校)

福島原発事故と市民性——ALPS 処理水の処分をめぐる議論から——

**B-1-2 【GS】 研究組織・基盤**

座長：横山 広美 (東京大学)

入江 信一郎 (京都工芸繊維大学)

大学内に基礎科学と工学が併存する構造の形成過程およびその普及：伝統的の大学と新興工科大学の競争および伝統的の西欧国家と新興国アメリカの競争

小野田 敬 (東京工業大学)、伊藤 泰信 (北陸先端科学技術大学院大学)

研究と支援の境界で共創を志向する科学コーディネーション活動——研究基盤施設の外部共用の事例から——

**C-1-2 【GS】 科学技術政策 (2)**

座長：調 麻佐志 (東京工業大学)

廣田 英樹 (文部科学省 国立教育政策研究所)

PDCA サイクルの論理的矛盾を読み解く——統計学の誤用と海外研究者の言説の改竄

新井 聖子 (慶応義塾大学)

日本の科学技術政策のエビデンス研究が進まない要因 II：SciREX 事業の不正を隠す文科省の事例研究

**D-1-2 【GS】 責任ある研究・イノベーション**

座長：直江 清隆 (東北大学)

小林 知恵 (北海道大学)

RRI における熟議性／包摂性

標葉 隆馬 (大阪大学)

萌芽的科学技術をめぐる RRI 議題アセスメントの実践

**E-1-2 【OS】 感染症対策におけるエビデンスと専門的判断**

オーガナイザー：本堂 毅 (東北大学)

本堂 毅（東北大学）  
科学的助言の不定性

尾内 隆之（流通経済大学）  
コロナ対策の専門家とは誰か

米村 滋人（東京大学）  
専門的判断の法的ガバナンス

**【昼休み】 11:45 - 12:50**

**12:50 – 14:10 名古屋大学実行委員会企画**

「名古屋大学におけるジェンダー平等のための取り組み：女性研究者採用・育成」  
司会：戸田山 和久（名古屋大学）

東村 博子（名古屋大学）

組織活性化戦略としてのジェンダー平等——名古屋大学の取組紹介——

**14:20 – 16:20 科学技術社会論学会設立 20 周年記念国内イベント**

「次の 20 年に向けて – STS とイノベーション」

挨拶：調 麻佐志 会長 進行：小林 俊哉（九州大学）

綾部 広則（早稲田大学）

STS からみたイノベーション研究との接点

林 隆之（政策研究大学院大学/GRIPS/）

科学技術イノベーション政策研究と STS の今後

パネルディスカッション「STS と科学技術イノベーション(STI)政策研究はどうつながるか」

パネルディスカッション司会：久木田水生（名古屋大学）

パネリスト：赤池 伸一（NISTEP）、青島 矢一（一橋大学）、日比野 愛子（弘前大学）、  
講演者二名

**16:35 – 17:20 総会**

**17:20 – 18:35 柿内賢信記念賞授与式および同特別賞受賞者記念講演**

12月5日(日)

**【第1セッション】 9:00 - 10:30**

**A-2-1【GS】科学コミュニケーション**

座長：川本 思心（北海道大学）

黒川 紘美（科学技術振興機構 日本科学未来館）

科学コミュニケーターに求められる役割転換とミュージアムでの人材育成の試み

日隈 脩一郎（東京大学）

2010年代日本のメディアにおける哲学：サイエンスコミュニケーションの再検討のために

片岡 良美（北海道大学）、川本 思心（北海道大学）

研究コンセプトの図像に用いられる図表現と図像を介したコミュニケーション

**B-2-1【GS】医療**

座長：神里 達博（千葉大学）

有賀 雅奈（桜美林大学）、永田 徳子（株式会社レーマン）、高柳 航（株式会社レーマン）

医療のリスク・コミュニケーションにおけるビジュアル・デザイン：患者と医療関係者双方にとって効果的な説明資料をデザインする

松原 克志（常磐大学）

アルツハイマー型認知症患者の介護における科学技術社会論的課題

今井 竜也（国際医療福祉大学）

不妊治療は「安全」と言えるか？ —— 出生児障害・リスクとの関係性の観点から

**C-2-1【GS】計量書誌学分析・テキストマイニング**

座長：藤垣 裕子（東京大学）

坂田 幸太郎（神戸大学）

エネルギーマネジメントの普及過程における財の変容と安定化

福本 江利子（広島大学）

ジャーナルの生態：書誌計量データによる考察

給 樂巴幹（名古屋大学）、田中隆文（名古屋大学）

モンゴル高原の牧畜に関する研究における伝統知の扱いの計量書誌学的分析

**D-2-1【GS】専門知と社会**

座長：三上 直之（北海道大学）

平田 光司（高エネルギー加速器研究機構）  
精神医療と STS（試論 1）

奈須野 文槻（東京大学）  
公衆衛生学における、専門家助言とパブリックコミュニケーションの位置づけと関係性

**E-2-1【OS】技術死生学の試み - 人の表象技術の発展と死生観の関係性を考察する**

オーガナイザー：渡部 麻衣子（自治医科大学）

渡部 麻衣子（自治医科大学）  
技術死生学の先行事例としての胎児視覚化

七沢 智樹（Technel 合同会社・自治医科大学）  
マインドアップロード技術と死生観

水上 拓哉（理化学研究所革新知能統合研究センター）  
デジタルクロンの行為者性とその設計の倫理

戸田 聡一郎（東北大学）  
死後のデジタルクロンにおける人格概念の分析——教唆責任と世代間倫理への侵食に着目して——

信原 幸弘（東京大学）  
不死のテクノロジーを哲学する

ディスカッサント：長谷川 愛

**【第2セッション】 10:45 – 12:15**

**A-2-2 【GS】 リスクコミュニケーション**

座長：林 真理（工学院大学）

吉田 省子（北海道大学）

リスク問題とリスクコミュニケーションという枠組みの解体

加藤 源太郎（追手門学院大学）

科学技術に起因するリスクと政治批判の関係

原 壘（東北大学）

前のめり批判再考——リスク・アセスメントとリスク・マネジメントの区別について

**B-2-2 【GS】 ゲノムと生命倫理**

座長：神里 達博（千葉大学）

佐藤 桃子（東京大学）、武藤 香織（東京大学）

遺伝医学における用語「人種」をめぐる議論と使用状況

田中 丹史（早稲田大学）

人を対象とするゲノム編集と日本の生命倫理政策

菅原 裕輝（慶應義塾大学）、見上 公一（慶應義塾大学）

ゲノムを創る？：ゲノム合成研究の展開と社会科学研究的関わり

**C-2-2 【GS】 AI (1)**

座長：標葉 隆馬（大阪大学）

前田 春香（東京大学、理研 AIP センター）

アルゴリズムによる差別は日本人にとってどう感じられるか？——量的調査を使った検討

一方井 祐子（金沢大学）、横山 広美（東京大学）

AI 倫理に対する日本人の態度：8つの観点に着目して

**D-2-2 【GS】 気候変動**

座長：三上 直之（北海道大学）

青柳 みどり（国立研究開発法人 国立環境研究所）

気候変動リスクに関する一般市民の認識～マスメディア報道と世論の関連を中心に～

馬場 健司（東京都市大学）、小澤はる奈（東京都市大学）

気候変動問題におけるシチズンサイエンスの担い手としての環境 NGO の可能性

阿部 修治（武蔵野大学）

地球温暖化対策における「省エネルギー」の位置づけと課題

**E-2-2 【OS】 歴史的な機器を活用した演示・科学教育の試み**

オーガナイザー：塚原 東吾（神戸大学）

多久和 理実（東京工業大学）

大学の科学史授業で歴史上の実験を再現する試み

平野 葉一（東海大学）

科学教育の場から見たレオナルド・ダ・ヴィンチの知と技

吉岡 克己（大阪市立科学館）

理工系博物館における歴史的機器の公開課題

ディスカッサント：前山 和喜

**【昼休み】 12:00 - 13:00**

**【第3セッション】 13:15 – 14:45**

**A-2-3 【GS】 ELSI**

座長：見上 公一（慶應義塾大学）

松山 桃世（東京大学）

哲学対話による自動運転にまつわる ELSI 論点抽出の試み

岸川 丈流（大阪大学大学院）

ELSI でみる風力発電施設立地問題～徳島県における事例研究～

筒井 晴香（東京大学）

自動運転技術の倫理に関する論点・課題の整理

**B-2-3 【GS】 新型コロナ/感染症**

座長：小林 俊哉（九州大学）

寿楽 浩太（東京電機大学）、田中 幹人（早稲田大学）

COVID-19 パンデミックにおける各国社会の対応の比較分析：市民社会、リスク・コミュニケーション、専門知に着目して

天野 麻穂（北海道大学）

コロナ禍は基礎医学研究者にどのような意識変容をもたらしたか？～基礎医学研究者を対象とした大規模アンケート調査の結果から～

**C-2-3 【GS】 AI (2)**

座長：標葉 隆馬（大阪大学）

横山 広美（東京大学）、一方井 祐子（金沢大学）

ELSI に基づく AI 倫理スコアの開発

高橋 さきの（翻訳者・お茶の水女子大学）

グローバリゼーションの中の翻訳—ニューラル機械翻訳は何をもたらしたか

**D-2-3 【GS】 環境**

座長：夏目 賢一（金沢工業大学）

平井 俊男（大阪府立長尾高校）

学校のそばを流れる船橋川を科学の目で見てみよう——その河川環境、水質、防災について——

宮崎 正也（名古屋大学）

経営者メッセージの内容分析に見る SDGs 理解

金子 雄伍（千葉大学）、神里 達博（千葉大学）

日本の天然記念物言説における科学的知識の「機能」の変遷——日本の天然記念物保存運動に見る“科学と社会の関わり”の変容——

**E-2-3 【OS】 天文学史に関する記録の保存・評価・活用の試み**

オーガナイザー：多久和理実（東京工業大学）

野澤 恵（茨城大学）

歴史上の科学データを検証することで蘇える研究の紹介

野澤 聡（獨協大学）

長野県諏訪青陵高等学校天文気象部での太陽黒点観測の歴史

千葉 庫三（東京工業大学）

天文学研究の史料の利活用——野辺山観測所研究史の経験とその課題

ディスカッサント：塚原東吾

**【第4セッション】 15:00 – 16:30**

**A-2-4【GS】市民参加**

座長：見上 公一（慶應義塾大学）

石川 肇（特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会）

SF プロトタイピングを用いた科学技術が実装された未来社会についての市民対話

西川 晃弘（大阪大学）

戦後日本の工業製品の品質向上における生活者の役割——『暮らしの手帖』の商品テスト活動を例に——

**B-2-4【GS】新型コロナ禍の専門家**

座長：山口 富子（国際基督教大学）

伊沢 亘洋（京都大学）

コロナ関連の倫理的問題における専門知の役割

柴田 清

エンジニアは専門家か？COVID-19 対策の「専門家」に何を期待すべきか？

**C-2-4**

なし

**D-2-4【GS】科学技術史**

座長：夏目 賢一（金沢工業大学）

藤吉 隆雄（国立情報学研究所）

少年工科学校の科学精神と技術者養成機能～自衛隊の科学技術機能の一側面～

吉岡 有文（元立正大学）

音響学者 田口泷三郎の戦時期における音の研究

**E-2-4【OS】被曝・健康被害を隠蔽する「科学の誤用」**

オーガナイザー：林 衛（富山大学）

林 衛（富山大学）

問題提起：公害・被曝被害者に反対してきた科学者の「科学」とは

宗川 吉汪（京都工芸繊維大学）

放射能安全神話の唱導者たち

藤岡 毅（大阪経済法科大学）

「黒い雨」訴訟高裁判決が日本の科学者と政治家に問いかけていること

鴨下 祐也（日本体育大学）

福島事故被害者にとっての内部・外部被曝問題